特 別 講 演

な で し こ 育 成 と 技 術 課 題

西嶋　尚彦　筑波大学 体育系

東京オリンピック・パラリンピック 2020 が決定しました．筑波大学は準備拠点となります．2013 年 9 月 7 日，ブエノスアイレスでの安倍晋三首相の最終プレゼンテーションでは「スポーツフォーツモロー」事業計画を強調しました．

「敬愛する IOC 委員の皆様に申し上げます。2020 年に東京を選ぶとは、オリンピック運動の一つの新しい力強い推進力を選ぶことを意味します。なぜならば、われわれが実施しようとしている「スポーツフォーツモロー」という新しいプランのもと、日本の若者は、もっとたくさん世界へ出ていくからです。学校をつくる手助けをするでしょう。スポーツの道具を提供するでしょう。体育のカリキュラムを生み出すお手伝いをすることでしょう。やがて、オリンピックの聖火が 2020 年に東京へやってくる頃までには、彼らはスポーツの悦びを、100 を超す国々で、1000 万になんなんとする人々へ直接届けているはずなのです。」

筑波大学のアスリートが際立ったのは，2011 年 3 月 11 日の東日本大震災の 4 か月後に世界チャンピオンとなった「なでしこジャパン」のセンターフォワードの安藤梢選手と，センターバック熊谷紗希選手です．安藤梢選手は，決勝トーナメントの初戦である準々決勝のホスト国ドイツ戦と準決勝のスウェーデン戦において全ての得点を産み出しました．熊谷紗希選手は，若干 21 歳で，ターバンを巻いた勇敢な女性としてワールドカップにデビューし，最後に自ら PK を叩き込んで，世界チャンピオンとなりました．

この偉業の社会貢献度の大きさは，2011 年 10 月 24 日の，日独交流 150 周年事業でのドイツ大統領訪日会見が明示しています．

「『なでしこ』のスポーツマン精神と好感度はドイツ人の心を一気につかんだ．それだけに，デュイスブルクでプレーする安藤梢選手が私の招きを受け，訪日団に参加してくれたのは非常にうれしい．日本女子チームはドイツW杯で 1 つの目標を掲げ，達成した．チームが勇気と自信を示したからこそ，困難な生活を送る人々を鼓舞した．その点で『ベルンの奇跡』1954 年W杯優勝に通じるものがある．ある意味では新しい『ベルンの奇跡』を女性が成し遂げた．これは重要なシグナルだ．一見して出口がみえない状況でも課題に取り組み，なし遂げていく女性の能力はみんなが知っている．戦争の後のドイツでも女性がその力を印象的に立証した」

世界チャンピオンの達成は偶然ではありません．世界水準のプレーを実現する技術と戦術による必然的結果です．世界水準の運動能力に発達するためのトレーニングと生活で用いられるすべての技術の成果です．サッカーをはじめとするボールゲーム競技では，同様に，センターライン選手の運動能力が勝敗の鍵を握っています．センターラインはチームの大黒柱，エンジン，中枢です．2011 年のなでしこジャパンチームでは，FW 安藤選手，MF 沢選手，DF 熊谷選手，GK 海堀選手が，センターラインを形成しました．

つくばなでしこの安藤梢選手は，2010 年 1 月，世界水準の運動能力を獲得するために，世界最強リーグの，世界最強クラブであるドイツ女子ブンデスリーグの FCR デュイスブルグ 2001 クラブへ移籍することに成功しました．イタリア AC ミラン#10 本田圭祐選手と同様です．このクラブには，2011 年ワールカップで対戦したドイツ代表選手が 8 人いました．毎日のトレーニングが世界最高水準です．この環境下で安藤梢選手の運動能力が引き出され，世界水準に発達しました．

その著しい発達ぶりを目の当たりにした熊谷紗希選手は，2012 年 1 月に，FFC フランクフルトにトライアウトに行きました．このクラブも，ドイツ代表が 8 人いました．2013 年・14 年シーズンでは，ドイツ代表が 10 人所属しています．安藤梢選手は 2013 年 1 月から移籍しました．

研究室では，世界最高水準のサッカー（フットボール）文化を進化させる担い手として，安藤梢選手と熊谷紗希選手を欧州最強クラブに送り出しています．ここで，重要なポイントは，世界最強リーグ，世界最強クラブでプレーできる世界水準の運動能力を準備することが，筑波大学で，実現することです．2012 年 1 月 6 日の学長懇談会での会見が，これを示してします．

安藤梢選手は，「筑波大学でコンディショニングやトレーニングの方法，戦術分析などを学んだ結果，環境の異なるドイツでも自己管理ができています．ドイツではスプリントトレーニングが多く取り入れられているのですが，筑波大学で学んだものの方が，質・レベルともに上でした．実際にドイツ女子代表チームのトレーニングに参加した時には，コーチから褒められ，先日も練習の時に，「あなたは速い！手本を見せろ！」と言われました．筑波大学に入って，充実した施設を使わせてもらい，先生方にサポートしてもらって，成長できていると思います．筑波大学には，そういうたくさんのチャンスがあると思うので，自分から積極的にチャンスを掴んで，やり続けて欲しいと思います.」

熊谷紗希選手は，「外国での生活に最初は戸惑いもありましたが，今は自分の生活サイクルを確立しています．これは食事の管理法など，大学で学んだ知識をずっと実践に生かしてきた成果だと思います．トレーニングは大学のものとほぼ同じなので，ドイツ人に負けることはありません．筑波大学では，いろんな先生方や先輩方にアドバイスいただいたり，同級生にも支えてもらったりして，出会いってすごく大切だし，すごくありがたいと思っています.」

世界水準の運動能力を獲得するために，トレーニングと生活で使用する新しい技術を研究開発することが必要不可欠です．この技術をもった日本人の若者が世界中で，スポーツをプロモートすることがスポーツフォーツモロー事業です．筑波大学での連携・協働体制を活用して，新しい技術開発を成功させることが期待されます．